# ２［評論］　『コミュニケーション力』

　コミュニケーション力をａミキワめる際に基本となるのは、お互いの会話を絡ませることができているかどうか、という点である。一人で話している間はまともな話をすることのできる人の中にも、相手の発言と自分の発言とを絡めて話すことのできない人は意外に多い。こちらの話をまったく聞いていないかのような話の持って行き方をする人がいる。①そのような人の特徴としては、次のようなポイントが挙げられる。

　一つ目は、質問をあまりしない。相手のことに、あまり関心がないのだ。たとえ質問をしたとしても、それは見せかけだけで、すぐに自分の話をし始める。

　二つ目は、人の話を途中でｂ遮る。自分の話は延々と時間をとってするくせに、人が話し始めると途中で遮ってしまう。これは、ボールゲームで言うと、ボール・ポゼッション（保有）の意識が低いということだ。自分がどれだけボール（話す時間）を持っているのかを意識していないと、チームメイト（話し相手）にボールをまわさなくなる。子ども同士の遊びでも、［　　　　Ⅰ　　　　］子どもがいたら周りから注意されるだろう。話をしているということは、ちょうどボールを持っているのと同じ状態だ。ボールゲームは皆で楽しむものだ。会話も球を意識的にまわさなくてはゲームにならない。

　説教のモードにすぐに入りがちな人は、相手の話を最後まで聞ききる習慣が少ない。すべてを説明しきる前に、初めの言葉で怒りだしてしまう。ちょっとした言葉づかいがｃ逆鱗に触れ、話のｄホンスジに入る前に説教が始まってしまう。これではコミュニケーションがとれていないと言える。

　三つ目は、②人が使った言葉を上手く使いこなすことがないということだ。会話をしていると、それぞれが使うボキャブラリーというものがある。相手が慣れ親しんでいる言葉をこちらがその場で上手に使いこなすことができると、コミュニケーションはｅカクダンに深まるのだが、これを意識して行っている人は少ない。反対に、自分の使うボキャブラリーが上手に相手の話す文脈に組み込まれると、会話が絡み合っているなと感じるものである。

　会話の素材は、言葉だ。お互いのボキャブラリーが混ざり合うことで、味わいのある料理ができあがる。肉じゃがをつくるのに、肉とじゃがいもをそれぞれ別に料理し別の器により分けているようならば、それは肉じゃがとは呼ばない。会話でも、［　　Ⅱ　　］が混ぜ合わされ、一つの［　　Ⅲ　　］に溶け合わされるからこそ、会話と呼べるのだ。

●語注

逆鱗に触れる＝逆鱗とは、竜の喉もとにある逆さに生えたうろこのこと。それに人が触れると、竜が怒ってその人を殺すという中国の故事に由来する。目上の人を激しく怒らせるの意。

ボキャブラリー＝。ある特定の範囲において使われる単語の総体をいう。

問１二重傍線部ａ～ｅの漢字は読みを記し、カタカナは漢字に直せ。2点×5

ａ〔　　　　　〕　ｂ〔　　　　　〕　ｃ〔　　　　　〕　ｄ〔　　　　　〕　ｅ〔　　　　　〕

問２　傍線部①とはどのような人のことか。本文中から三〇字以内で抜き出せ。 8点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問３　空欄Ⅰに入る最も適当なものを次から選べ。7点

ア　球を友達にまわさずに、すぐシュートをする

イ　球を友達の全く居ない方向に投げてしまう

ウ　来た球を自分からは全く受け取ろうとしない

エ　球を友達にまわさずに、一人で保有している

オ　球を追わずに、球が来るのをひたすら待っている

〔　　　〕

問４　傍線部②の意味として最も適当なものを次から選べ。7点

ア　相手の言葉をきっかけにして、自分の言いたいことを話す。

イ　相手の使った言葉を、他の言葉に言い換えながら話す。

ウ　相手の使った言葉をきっかけにして話題を盛り上げる。

エ　相手の使った言葉を自分も使って、会話を絡ませる。

オ　有名な慣用句や名言を入れ込んで話を盛り上げる。

〔　　　〕

問５　空欄Ⅱ・Ⅲに入る最も適当な語句を［５］・［６］段落中からそれぞれ抜き出せ。 5点×2

Ⅱ〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

Ⅲ〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問６　筆者の意見として適当でないものを次から一つ選べ。8点

ア　コミュニケーション力がない人は、相手の話に関心を持たず質問をしない。

イ　コミュニケーション力があるとは、会話を絡ませることができることでもある。

ウ　お互いの言葉を、それぞれが上手に取り込んで使うと会話が絡み合う。

エ　人の話を遮ってしまって、自分の話を始めてしまう人との会話は楽しくない。

オ　説教モードに入りがちの人は、相手の言葉を勝手に解釈してしまう癖のある人である。

〔　　　〕

【解答】

問１　ａ見極（める）　ｂさえぎ（る）　ｃげきりん　ｄ本筋　ｅ格段

問２　相手の発言と自分の発言とを絡めて話すことのできない人（26字）

問３　エ

問４　エ

問５　Ⅱ＝ボキャブラリー（「素材」も可とする。）

　　　Ⅲ＝文脈

問６　オ

■覚えておきたい語句

□ １　コミュニケーション…言葉や文字などで意思の伝達を行うこと。

□14　逆鱗に触れる…………目上の人の怒りをかう。

〔要　約〕

　考察（主張）の1段落に、それ以降の段落の内容を入れ込んで要約する。

2段落以降にあげられている「できていない」人の特徴と逆のことが必要だ、と筆者は主張しているので、そのようにまとめる。

　　　　↓

コミュニケーション力がある人は、話を途中で遮らず、質問をしながら聞くことのできる人である。そして、お互いのボキャブラリーを混ぜ合わせながら、一つの文脈に溶け合わされるからこそ、会話と呼べるのだ。（97字）

〈筆者＆出典〉齋藤　孝（さいとう・たかし）一九六〇年（昭和35）静岡県生まれ。明治大学文学部教授。専門は教育学、身体論、コミュニケーション論。二〇〇一年、『身体感覚を取り戻す』で新潮学芸賞を受賞。教育スタイル論の提唱者として知られ、『声に出して読みたい日本語』がベストセラーとなる。本文は『コミュニケーション力』（岩波新書、二〇〇四年）より。

【 読みのセオリー】

★「たとえによる説明」は、対応をおさえよう

　説明的文章において、たとえを出して説明することがある。たとえを出すことで、筆者は読者にわかりやすく説明しようとしているのである。何を、何にたとえているかをまずきちんとおさえること。その上で、個々の対応関係を読み取っていくことが大事である。

　本文では、会話をボールゲームにたとえていることに注目。

■読みのセオリー［実践］「たとえによる説明」は、対応をおさえよう

［言いたいこと → たとえ］

問２

会話→［１　　　　　　　　］

自分の話は延々とするくせに、人の話は遮る

　↓

ボールを［２　　　　　　　　］

問５

会話→［３　　　　　　　　］

［４　　　　　　　　］

　↓

肉とじゃがいも

〔解答〕　１ボールゲーム　２まわさない　３肉じゃが　４お互いのボキャブラリー

☆「セオラム補充問題」　問題は、次の３種類があります。

　　＊差し替え　　　……該当の問と差し替えるもの

　　＊追加　　　　　……同じ問で、追加された問題

　　＊新問　　　　　……追加可能な新たな問題

＊差し替え

問４　傍線部②の意味を三〇字以内で簡単に説明せよ。

［答］　相手が慣れ親しんでいる言葉を、自分も使って会話を絡ませる。（29字）

＊新問

１４行目　（説教）を空欄にする

問　空欄に当てはまる言葉を本文中より抜き出しなさい。

［答］　説教

＊差し替え

問６　文章全体を踏まえて、コミュニケーション力があるとはどのようなことだと筆者は考えているのか。ふさわしいものを次からすべて選べ。

　ア　相手の話に合わせて、無理矢理に質問を考える。

　イ　相手の話を遮って、そこまでの話を確認する。

　ウ 相手のことに興味を持って、質問をする。

　エ　相手の話を最後まできちんと聞ききる習慣がある。

　オ　自分の話をまずはとことん聞いてもらおうとする。

　カ　相手の使っている言葉を、意識して使うようにする。

　キ 自分の話をずっとせず、相手に話をする機会をまわす。

［答］　ウ　エ　カ　キ